



八王子市立横山中学校 学校便り 令和8年度 10月号 令和8年10月15日



横山中学校 HP

あいさつの大切さ

校長 長田 克

みなさんは、毎日どのくらい「あいさつ」をしていますか。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ありがとうございます」など、私たちは毎日の生活の中で、たくさんのあいさつをする場面がありますが、胸を張ってあいさつできてますと言えますか。今の横山中学校の現状を見てみると胸を張ってできてますとは言えないと思います。

では、なぜあいさつは大切なのでしょうか。

私は、あいさつには「人と人との心をつなぐ力」があると思います。例えば、朝、友達から「おはよう」と声をかけられると、自然と明るい気持ちになります。自分からあいさつをしたときも、相手が笑顔で返してくれると、うれしい気持ちになります。このように、あいさつは短い言葉ですが、相手の気持ちを明るくすることができます。

また、あいさつは人間関係を築くためにも大切です。初めて会う人に自分から「こんにちは」と声をかけることで、会話のきっかけが生まれます。毎日続けていけば、「この人はいつもあいさつをしてくれる」という安心感や信頼にもつながります。

さらに、あいさつには、相手を尊重する気持ちを表す意味もあります。相手の目を見て、相手に聞こえる声であいさつすることは、「あなたを大切にしています」という気持ちを伝えることにもなります。

学校では、友達だけでなく、先生、学校を支えてくださっている方、地域の方など、多くの人と関わります。だからこそ、誰に対しても自分から気持ちよくあいさつすることが大切だと思います。

あいさつは、特別な道具もお金も必要ありません。誰でも、今日から始めることができます。まずは、朝の「おはようございます」を、自分から言うことから始めてみませんか。

たった一言のあいさつでも、それによって相手の気持ちが明るくなり、学校全体の雰囲気も変わるかもしれません。

私はこれからも、ただ「あいさつをする」のではなく、相手を思いやる気持ちを込めて、自分からあいさつすることを大切にしていきたいです。

一人のあいさつが学校全体の明るさにつながる。学校をみんなで作っていきませんか。

修学旅行を終えて

修学旅行は、数ある学校行事のなかでもいつまでも記憶に残り、卒業後も語り継がれる楽しい思い出になるものの一つだと言われています。10月5日(月)から2泊3日で京都・奈良方面への修学旅行へ行ってきました。また、中学校の修学旅行は「学びの集大成」とも言われています。

京都・奈良を修学旅行の目的地しているのは千年を超える時間をへた日本の伝統文化が凝縮した場所だからです。また、巨大な建築物や美しい仏、力強い仁王像、丁寧に整備されたきれいな庭や新緑の樹木、花々など、京都や奈良は文化財や

世界遺産の宝庫という理由もあります。そして、横山中学校では、社等を訪れるだけでなく、日本の伝統を次世代につなぎたいという職人さんから技法や魅力、ものづくりの大切さなど日本の伝統的な文化や歴史を学ぶこともできるからという理由もあります。

特に、伝統文化に触れることは「日本とは何か」を考えるきっかけであり、それがあってこそ他者を理解しようとする姿勢が生

まれると言われてます。日本の伝統・文化のよさや豊かさに気づくことによって自国の文化理解が基盤となり、異文化を理解し大切にしようとする心が、はぐくまれるのです。この3日間の行動をみていると実行委員、班長を中心によく考えながら取り組んでいたと思います。とても良い思い出が出来た修学旅行になりました。

